

令和6年度第3回江南市環境審議会

●日時 令和7年1月24日（金） 午後2時00分～午後3時20分

●場所 江南市役所 3階 第3委員会室

●出席委員（12名）

会 長 川 口 邦 彦
委 員 岩 井 喜 美 子
委 員 林 本 圭 司
委 員 鈴 木 文 隆
委 員 石 井 進
委 員 谷 口 郁 子

副会長 加 藤 幸 治
委 員 西 村 和 仁
委 員 栗 本 明 美
委 員 堀 場 敏 之
委 員 宮 澤 恵 子
委 員 小 野 陽 子

●欠席委員（3名）

委 員 富 岡 万 揮
委 員 伊 藤 靖 祐

委 員 山 城 英 俊

●事務局

環 境 課 長 相 京 政 樹
環 境 課 主 任 田 口 恵 里

環 境 課 副 主 幹 近 藤 祥 之

●傍聴者数 0人

●資料

資料1 SDGs未来都市について

資料2 ゼロカーボンシティの実現に向けた施策について

■会議経過

○事務局

みなさん、こんにちは、環境課長の相京でございます。

定刻前ではございますが、皆さまお揃いでございますので、ただいまより、令和6年度第3回環境審議会を始めさせていただきます。

本日は大変ご多用のところ、ご出席を賜りましてありがとうございます。

本日は、富岡委員と山城委員、伊藤委員の3名が所用のため欠席しておりますのでご報告をさせていただきます。

それではこれよりの進行は、川口会長の方をお願いしたいと思います。

どうぞよろしく願います。

○会 長

皆さんこんにちは。お忙しいところありがとうございます。

それでは、限られた時間ですので、まずは次第1の「SDGs 未来都市について」事務局からの説明をお願いいたします。

○事務局

はい、それではSDGs 未来都市について説明をさせていただきたいと思います。

皆様ご存知の通り、江南市は今年度、内閣府からSDGs 未来都市に選定をされまして、さらには、未来都市の中でも、特に先導的な取り組みとなる自治体SDGsモデル事業としても選定をされました。SDGs 未来都市は、県内では9番目の選定、また自治体SDGsモデル事業は、県内では初めての選定となっております。

SDGsに関しては、企画課が主導をしております、まだまだ各職員の中にも浸透しきっていない状況ではありますが、環境部門もかなり関わりが深い内容となっております、これまでの環境審議会でも何度かご質問をいただいているところでもありますので、今回の審議会でもSDGs 未来都市について説明をさせていただこうと思ひまして、資料を用意させていただきました。

初めに資料①の表紙をご覧ください。江南市が提案するSDGsモデル事業は、「SDGs でつながるシェアリングソサエティ江南」でございます。市制70周年を契機に、これまで市が進めてきた市民協働によるまちづくりにSDGsの視点を取り入れ、官民連携や地域連携による、様々な主体間でのまちづくりを強く押し進めることで、市民満足度を高めていきたいと考えております。

2ページをお願いします。江南市は、愛知県北部、名古屋市へは電車で約20分の距離にあるベッドタウンですが、人口は減少傾向で、産業基盤は比較的弱い状況にあります。市が目指す、生活都市の実現に向けて、2030年のあるべき姿に、地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市を掲げ、SDGsの各ゴールへ

の取り組みを進めていきます。

3ページをお願いいたします。SDGs モデル事業の主な取り組みは、最下欄に記載した土台の部分に示す通り、地域資源や地域課題を様々な主体の間でシェアをして、まちづくりを進めていくこととなります。ステークホルダーが互いに連携し合いながら、まちづくりに新たな価値を創出していくことを目指した社会を、シェアリングソサエティとして、その連携を創出するためのツールにSDGsを活用し、経済・社会・環境の3側面の相乗効果を創出していきます。

4ページをお願いいたします。モデル事業における経済・社会・環境の3側面の取り組みでございます。経済面では、地域経済の活性化と、市内の就労環境の確保を成果、いわゆるアウトカムに設定し、新たな工業用地の整備を進めるなど、江南市で暮らし、働けるという環境を創出していきます。中段の社会面では、ワークライフバランスの実現と官民競争の推進をアウトカムに設定し、働き世代や子供たちへの施策を充実させるとともに、住みなれた町で住み続けられるよう、地域で見守り、支え合う地域共生社会を推進していきます。また、官民連携、地域連携でまちづくりを進めていくため、市民活動支援の拠点である地域交流センターの利用の促進や、にぎわいの創出として行っている市内の駅前広場の利活用を他の公共スペースへ広げていきます。下段の環境面では、再生可能エネルギーの普及、活用をアウトカムに設定し、令和5年2月に宣言したゼロカーボンシティ宣言の実現に向け、市民、事業者、行政が協働して取り組みを進めていきます。

5ページをお願いいたします。3側面をつなぐ統合的取り組みでございます。江南市シェアリングソサエティ創出事業は、大きく2つの考え方で構成されま

す。1つ目の柱は、地域資源シェアリングです。限られた地域資源を最大限に生かしたまちづくりを行うため、行政、企業、市民団体、市民がそれぞれの強みや課題をシェア、マッチングし合う仕組みを作り、その仕組みのもとで事業を実施していきます。この地域資源シェアリングを実現するために必要な仕組みが、もう1つの柱であるSDGs官民共創プラットフォームになります。詳細は次の6ページをお願いいたします。

江南市SDGs官民共創プラットフォームは、地域課題の登録を行う「課題相談者」と、解決策を提案する「解決策提案者」をマッチングするためのプラットフォームで、左下の図で表示をしている3つの仕組みで構成しています。

1つ目の江南市SDGs登録制度では、様々なステークホルダーの発掘により良い解決策提案者を確保し、円滑なマッチングを図るためのコーディネーターを配置します。2つ目の地域まちづくり推進協議会では、産官学をはじめ、多様な主体の視点を生かし、プラットフォームのあり方や、効果的な運用について

の協議、提言を行い、協働のまちづくりを支援します。3つ目の地域課題マッチングシステムでは、地域交流センターを中心に、事業等のマッチングだけでなく、その後の活動や交流の場の提供、活動支援などを展開していきます。この官民プラットフォームにおいて、3つの取り組みを総合的に運用し、ステークホルダーの把握、主体間の情報共有とマッチング後の支援を切れ目なく実施していきます。

7ページをお願いします。3側面の相乗効果でございます。

図の左側に経済、右側に社会、下に環境を配置しておりますが、経済の面から環境面においては、一番下の左側の四角の中に記載をしておりますが、公共交通の利用促進による交通渋滞の緩和や、企業の設備の省エネ化により、温室効果ガスの削減を図ります。その逆の環境面から経済面においては、SDGs 登録制度により、SDGs や環境問題に取り組む企業の増加を促す相乗効果を狙います。

次に経済面から社会面においては、一番上の右側の四角の中に記載をしておりますが、市内の就労環境を確保することで、通勤時間の短縮など、子育て世帯世代の生活のゆとりにつなげます。その逆、社会面から経済面では、官民連携による民間事業者や各種団体のまちづくりへの参入機会の増加などを通じて、企業参入の促進を図ります。

最後に、社会面から環境面では、右下の四角で囲った部分になりますが、官民共創の推進により、SDGs イベントや教室が増えることで、参加する市民の意識が高まり、新たに環境活動団体が生まれることなども期待できます。その逆の環境面から社会面では、江南市ゼロカーボンシティ宣言に沿った取り組みを、市民、事業者、行政が連携して実施することで、地域協働による循環型のまちづくりを目指します。

8ページをお願いいたします。自律的好循環の具体化に向けた事業として4つの観点から取り組んで参ります。

ヒトの観点からは、地域交流センターでの人材育成や団体支援などにより、SDGs に取り組む主体を増やすため、大学生などの若者を中心としたワークショップの開催も含め、まちづくりの担い手を育てる取り組みも進めます。

モノの観点からは、事業者などが繋がり、活動できる場を、地域交流センターを中心に創出し、皆さんの活動がより活発になる環境を整えます。

カネの観点からは、SDGs 推進の拠点となる地域交流センターの運営を将来的に指定管理者制度へ移行することや、企業版ふるさと納税の活用により、経済的に自立した仕組みを仕組みとしていきたいと考えています。今年の市制70周年記念事業では、地元テレビ局とオリジナルドラマを作成するという企画を立ち上げまして、その資金には企業版ふるさと納税制度を活用することとして、寄付の募集を行い、地域金融機関と連携を図ることにより、それぞれの強みを

生かして資金を集めることができました。

最後に、情報の観点からは、SDGs 登録制度を活用した情報発信に加え、市民活動などを促すための講座などのイベントもさらに展開していきます。

最後に 10 ページをお願いいたします。

結びといたしまして、江南市は都市部へのアクセス性が良好な環境にある住宅都市ですが、少子化を背景に、地域の担い手が減少している状況です。そうした中で、地域のニーズや課題に対応していくためには、行政だけでなく、企業や市民団体も公共を担う存在となり、江南市シェアリングソサエティ創出事業を基軸にみんなでまちづくりを進めることが必要となります。そして江南市が住むだけでなく、働く、学ぶ、遊ぶなど生涯にわたって、ゆとりと生きがいを持って暮らし、活躍できる機能を備えた生活都市となるよう、SDGs を共通のゴールとして、市民、企業、行政などが連携でできる、連携できる仕組みを実践していきます。

ということで、内閣府に提案して選定されました自治体 SDGs モデル事業「SDGs で繋がるシェアリングソサエティ江南」についての説明は以上となります。参考として、今後開催が予定されております SDGs 講座の案内チラシもお配りをしておりますので、後程ご参照いただければと思います。私からの説明は以上でございます。

○会 長

ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何か質問がありましたら、手を挙げていただいてマイクをできるだけ使用していただけるとありがたいと思います。

○委 員

江南市 SDGs 登録制度には、既に 21 の団体が登録されています。その中には、江南市を始めとして一宮市、大口町、犬山市などの企業がありますので、今後、会議などで出た内容をまた報告していただけたらありがたいと思います。

○事務局

そうですね、環境関係の企業でいうと、倉衛工業さんや、大和エンタープライズさん、審議会委員である林本建設さん、それとカーボンニュートラルの関係で東邦ガスさんも SDGs パートナー企業として登録されています。

○会 長

ありがとうございました。他に何かございましたら。

○委員

今お話いただいた内容というのは、SDGs 未来都市に選定された6月時点というかそれ以前に計画されたもので、もう半年くらい経ってると思うんですけども、その進捗などについてどこかで発表されたりということはあるんでしょうか。

○事務局

SDGsの関係は企画課が主導でやっておりまして、まだ各課に情報が下りてきていない状況ですが、この後、3月にSDGsの啓発イベントが文化会館でありまして、そこを出発点にして、今後は布袋にある地域交流センターを軸にして事業を展開していくという流れになるのかなと思います。

○委員

ありがとうございます。例えば、そのSDGsパートナー企業と繋がってなにかやりたい場合には、そういった機会もあるんでしょうか。

○事務局

すみません、その辺りの情報はまだ企画課から下りてきていないんですが、これから、それぞれの方面から課題相談が寄せられて、解決できるパートナー企業のどこかとマッチングして、解決をしていくということになります。例えば未来都市と言うと、自動運転の車をどんどん走らせるとか、そんなイメージでいたんですけども、そうではなくていろんな課題を4者、市民・事業者・行政・市民団体に解決して、住みやすいまちを作っていこうということになります。

○委員

これからパートナー企業に登録されてる方たちと話し合いをして進めていけるということで、いろんな事業に協力していく市民団体も大切だと思うんですけども、その未来都市に下りている補助金の中から市民活動費などを捻出していただけるような可能性はあるんでしょうか。活動を進めていこうと思っても、なかなか資金面で困ることがありますので、そういった市民をもう少し巻き込んでいただけると嬉しいなと思います。

○事務局

はい、費用のかかることも多々あると思いますので、取り組みを進めるため

には、そういった補助金なども検討していく必要はあるのかなと思っており
ます。

○委員

このSDGs未来都市というのは、選定されて、何年とかっていう期限は最初から設定されているのか、それと最後、期限があるのであれば、それまでにこれを達成して国の方に報告しないといけないのでしょうか。

○事務局

SDGsという考え方は基本的には2030年が1つの目標年度になっていまして、未来都市の選定というのは、今年度が最終だったと思います。2030年までにいろんな数値目標に向かって一定の成果を出すことを目指し、報告するということになります。そこから先の展開は、はっきり決まってるのかどうかちょっと今お答えしかねるんですけども、目標としては2030年というのが1つの目安として置かれてると思います。

○会長

ありがとうございました。他にないようでしたら私の方から。

最近、いろんな事業が民間委託になってますけれども、実際、民間委託した時にゼロカーボンだとか、省エネ化を目指すだとか、そういったことを行政の方から、企業の方にそういうお話をされてるのでしょうか。

実際、例えば自分で言うと自然関係の仕事をやっていて、本当に自然のことに関与するのかなと思えるようなことを、もう枠組みの中に入ってるからやらなきゃいけないっていう、そういうことがあったり。あと例えばゼロカーボンって言うとオール電化とかっていうのが主になってくるんですけど、実際、そこまでの予算を本当に業務委託した時に渡されてるのかとか、いろんなことがあるんですけども。

○事務局

実際にゼロカーボンを目指して動こうとすると、やはりそれはハードルが高くて、そこに行政が資金を投入して、やってくださいっていうことはなかなか難しいと思います。先日、名古屋で開催された地球温暖化対策フォーラムで企業の方が取組を発表していたんですが、まず採算度外視でスタートしてるっていうところがあって、その新しい価値を企業PRに生かして、次の新しい事業に繋げていってうまくいっているというような事例の発表がありました。なかなか利益を追求しながらカーボンニュートラルを実現するというのは悩みどこ

ろなのかなという気はします。

○会 長

ありがとうございました。他にないようでしたらもう1つ。

実際、環境課の方に聞くのもなんですけども、江南市の農業従事者ってどのくらいいるんでしょうか。専業農家や兼業農家っていうのがどのくらいの割合であるとか、全くの耕作放棄地になってしまっているとか。そういったものも含めて、例えば土地を宅地にすれば、当然名古屋のベッドタウンっていう名目でも有効であると思うし、その辺はどうなんでしょうね。

○事務局

ちょっと具体的な件数は把握していませんが、実際、新規就農者っていうのは増えてきているんじゃないかなと感じています。SDGs パートナー企業に登録していただいたなかで、江南北ファームさんというところがあるんですが、こちらは新規就農の方で、積極的にPRしながら活動を広げていこうという取組をされてますので、件数は別として、頑張っって新規就農者を増やしていこうっていう雰囲気はあるんじゃないかとは思ってます。

○会 長

それは例えば、生産したら、地産地消の観点から地域に卸すみたいな形がとられてるんでしょうか。もしそういうことが分かったら、説明していただくと嬉しいかなと思います。多分この場で答えは多分出せないと思いますが。

他にどなたかご質問はありますか。

ではないようですので、次第2の「ゼロカーボンシティの実現に向けた施策について」を事務局から説明していただけますでしょうか。

○事務局

それでは、「ゼロカーボンシティの実現に向けた施策について」説明させていただきます。着座にて失礼します。

始めに資料②をご覧ください。こちらは前回の審議会でもお示しさせていただいたロードマップです。今回は主に、「ゼロカーボンアクションの推進」における市の取り組みについて説明させていただきます。

では資料を1枚めくっていただいて、デコ活推進プロジェクトということで、デコ活で目指しているのは、行政からの一方的な働きかけではなくて、市民の方一人一人が実際にライフスタイルの転換に取り組んでいただけることです。市としては、市民の方がデコ活に取り組むきっかけになるような施策の実施と

ともに、市としても「デコ活宣言」と「官民連携協議会（デコ活応援団）」に参画して、アピールをしていきたいと考えています。

デコ活とは具体的にどういったことを指すのかといいますと、イメージ図のように、大まかに分けると、移動や食、住まい、衣類や買い物の仕方など、色々な分野に分けることができるのですが、一例で言いますと、たとえば「移動」ならガソリン車よりも環境負荷の低いEV車や公共交通機関を選ぶ、だとか、「住まい」なら太陽光発電や省エネ家電を積極的に取り入れるといったことが挙げられます。ただ、これに限らず、暮らしが豊かになり、脱炭素にも貢献する取り組みはすべて「デコ活アクション」であると定義されています。

では、次のページをご覧ください。デコ活に関する施策について説明させていただきます。

まず、既存の取り組みについてです。1つ目と2つ目は食、主にフードロスに関する取り組みということで、フードドライブとこうなんタベマルシェを挙げています。どちらも、そのままでは無駄になってしまう食品を、必要としている人に繋げることで、食品ロスの削減やごみの減量を図るものです。3つ目は、ゼロカーボン推進設備設置費補助金として、住宅に太陽光発電設備や蓄電池を導入する方に補助金を交付しています。今年度も、現時点でほぼ予算満額に達する数の申請がありました。

次に、来年度予定している施策について説明させていただきます。

1つ目は、省エネ家電買換促進キャンペーンです。これは、10年以上前の古い家電ほど消費電力が大きいので、そういった古い家電から新しいもの買い換える方に補助金を交付することで、省エネ家電への転換を促進するものです。家電のなかでも消費電力の大きいものということで、令和4年度はエアコン、令和5年度は冷蔵庫と冷凍庫に対して補助をおこなってきましたが、令和7年度はエアコンと冷蔵庫・冷凍庫の両方を対象として、買い換え費用の一部補助を行う予定です。

2つ目は、市役所本庁舎の省エネ診断です。本庁舎の空調等の設置機器やエネルギーデータをもとに、どのようなCO2削減対策が効果的なのか、民間企業が実施している「カーボンニュートラル支援サービス」を利用して、より費用対効果の高い対策は何か、分析するものです。本庁舎は令和5年度に照明設備のLED化工事を行いまして、一定の削減効果がありましたが、今後、さらに削減していくためにはどうすればいいのか、その分析結果をもとに、既存設備の運用方法の改善をするのか、よりエネルギー効率の高い設備に更新をするのかなど、検討していきたいと考えています。

3つ目は、公共施設へのEV充電器設置です。今年度計画をしておりましたが、全国的に需要が大きく、江南市としては来年度にまた国の補助金を申請し

まして、協定企業の協力のもと、KTXアリーナへの充電器設置を計画しています。

4つ目は、脱炭素エキデン愛知への参加です。今年の春ごろから、愛知県と企業が協力して実施する環境プロジェクトの一環として、「SPOBY（スポビー）」というアプリを活用したイベントを開催する予定です。これは、アプリ上で、徒歩や公共交通機関での移動やマイボトルの持参など、環境にやさしい「脱炭素行動」をポイント化しまして、貯めたポイントを協賛企業からの景品などと交換できるようにすることで、一人一人の取り組みを推進するものです。

昨年末に県から市町村への情報提供と協力依頼がありまして、イベントの詳細についてはまた県からパンフレット等が届くかと思いますが、県下一体となって取り組んでいきたいということですので、市としても市民の方への周知や市役所全体での取り組みなど、できる限り協力していきたいと考えています。

次は、現在検討中の施策について説明させていただきます。

1つ目は、マイボトル携帯の促進についてです。市役所などの公共施設にマイボトル用のウォータースタンドを設置することで、ペットボトルのゴミの削減や、デコ活の1つであるマイボトルの携帯を促進するものです。これは民間企業から協定締結の提案がありまして、どうするかについては今後検討していくところですが、今年度からクーリングシェルターという熱中症対策の一部が環境課の所管になりまして、ウォータースタンドの設置ができれば熱中症対策の一環として活用できることもあり、前向きに検討できればと思っております。

2つ目の施策は、EVシェアリングについてです。これは、市が公用車として所有するEV車を平日の夜間や休日に一般向けに貸し出すもので、県外の自治体では、民間企業と協力して住民や観光客向けに実施しているところもあります。EV車は企業を中心に広がりつつありますが、一般向けとなるとまだなかなか導入が進んでいないですので、そういった購入を迷っている方のきっかけづくりに繋がるのであればというふうに思います。まだこれは全国的にも実施している自治体は少ないですし、もともと車社会の愛知県で需要があるかという問題もありますので、慎重に検討していければと考えております。

3つ目は、イベントにおける環境啓発です。今年度は市制70周年記念事業として10月に環境フェスタを開催しましたが、来年度以降は環境フェスタとしての単独開催はせず、市が主催するほかのイベントとの共同開催またはブース出展という形を検討しています。イベントは市民の方に直接アピールできる貴重な機会ですし、環境フェスタの振り返りでもまた来年度以降も何らかの形で継続を、というご意見もありましたので、今後、他の課とも話し合いをしながら、検討を進めていきたいと思っております。

以上がゼロカーボンシティの実現に向けた施策についての説明でございます。

まだいろいろと検討中のこともございますので、今後さらに発展させて進めていければと思っております。以上で、説明を終わります。

○会 長

ありがとうございました。この件に関して、今、どなたかご質問か、意見がありましたら。

考えてみえる間に私の方から1つ。どうしてもゼロカーボンだとかっていうと、まず電気を使ってという話が出ますけど、ただ、電気はほぼ化石燃料を燃やしながら作ってますよね。これを、もうちょっと視点を変えて、多分皆さんもご存知かもしれませんが、太陽光発電でも、屋根に設置する形ではなくって、ペロブスカイトというフィルムみたいなもので発電するっていうやり方が今開発されています。これは主な原料がヨウ素なんですけど、日本にはこのヨウ素が豊富にある。電気を作るのに、化石燃料を仕入れてきて燃やして温暖化に悪いことをやりながら電気を使いましょうと言っても、何の信憑性もないというか、説得力全くないですよ。でもこういう、例えばこの窓にでも張りつけられるような仕組みがそろそろできそうですので、そういったことも視野に入れて、例えば行政として、そういう勉強会とかに参加していただいて、もっと違う方向で、視点を変えていただけたら嬉しいなというふうに思いますけれども、そういった勉強会とかってありますでしょうか。

○事務局

実際、技術的な話に踏み込んでしまうと、やっぱり行政の手には負えないので、なかなか難しい話かと思えます。開発している企業と行政が直接接触するというのは、市役所レベルではなかなかハードルが高いというか、間が飛びすぎているかなと。市内にそういった企業があれば声もかけやすいと思うんですが、やはり身近にそういった企業があるかどうかは1つのポイントになるかと思えます。

○会 長

江南にもそういう企業を誘致できるといいですね。

やっぱりそういう活動をしていかないと、よそがやってないから、うちらもこのままでいいやじゃなくって、積極的に声をかけて勉強するというのをやっていただけるとありがたい。そういう形で勉強していかないと、例えば市民の方にゼロカーボンと言っても、何の説得力もないと思うんですよ。すみません、これは要望ですが、ご検討お願いします。

○事務局

はい、最近では事業者の方も、カーボンニュートラルをきっかけにして行政と関わりを持ちたいということがあるような気がしていて、大手だと住友商事さんが先日お見えになって、いろいろ話を聞かせてもらいました。一つ面白い提案があったのが、電気の駅を作りませんかというものです。ものすごく大きな蓄電池を持っているので、1ヘクタールぐらいの土地があればそこに蓄電池を置いてそれを拠点にしていろいろな事業に活用するという提案や、面白いなと思う取り組みもいくつかありました。先ほどは企業に出向いてという話もあったんですけれども、営業にくる企業から話を聞くことはやっている状況です。

○会長

ありがとうございます。他に何かありますか。

○委員

いま会長さんからお話があった件ですが、第1回の会議の際にもお話したんですが、今年の4月から建築関係の省エネ基準が厳しくなります。そうすると、必然的に太陽光パネルを設置しないといけなくなるんですね。ただ、皆さんご存じのように太陽光パネルは15年か20年しか持たないですから、廃棄処分をどうするか、全国的に問題になっています。国の方針で太陽光パネルを設置したときに、それが20年後にどうなるかということを考えると、それが本当にいいことなのかどうか疑問に思います。国の決めることと実際と、乖離している部分があるんじゃないかと、先々に問題が出てくるんじゃないかと懸念している人もいます。ですから、最近では蓄電池の技術がだいぶ発達してきましたが、太陽光パネルについては、私自身はちょっと懸念を持っていますので、そういった状況であるということも少し念頭に置いていただければと思います。

○委員

検討中の施策の中のマイボトル携帯の促進というのは、個人的には、子どもがスポーツをやっている、夏場は大きな水筒を持って行っても足りないとかいうことがあるので、とてもいいなと思います。ただ、資料に水道直結型とありますが、最近の子供たちは水道の水を飲む習慣がないので、実際に使ってもらえるかどうか、ちょっと疑問に思います。自分自身、お店をやっているペットボトルのゴミが多いことは感じますし、施策自体はとても良いので、実際に使う人の意見とかを聞きながらブラッシュアップしていただければいいと思います。

○事務局

ウォータースタンドについてなんですが、水道直結型というのは、よく家庭にあるような、いわゆるボトルの水を使用するタイプではなく、水道の導管をスタンド内に引っ張ってきて、ろ過してボトルに給水するような仕組みになっています。

○委員

子どもたちが水道の水を飲まないというのは自分もよく聞きます。でも、水道水は試験項目も多いし、とても安全な水なんです。なので逆に水道水って美味しいんだ、ということをしてPRしてもいいんじゃないかと思います。ウォータースタンド内でろ過をするということですが、水道水は既にきちんとろ過した水ですので、浄水器の使用を勧めるような、あまりそういったイメージでやるのはどうかなという気がします。

○事務局

そこは、水道水を原水として使うけれど、少し手が加わっていますよということで、企業の技術を否定する必要もないかなと思っています。最近では水道水に含まれる有機フッ素化合物が話題になることもあって、安全性を気にしている方がいることは感じています。

○委員

水道水については、江南市の水は非常に安全です。県内でももっと南のほうにいくと、水質の悪いところもありますけれど、江南市は非常に水質がいいので、水道直結型のスタンドを進めていただければいいと思います。

○委員

資料の話に戻りますが、デコ活推進プロジェクトということで、今後はこの「デコ活アクション」という言葉で啓発を進めていくことになるのでしょうか。自分は、「日々の暮らしのなかでできるゼロカーボンアクション」ということで啓発物をつくったりしていたんですが、デコ活という言葉を使ったほうがいいのでしょうか。今後、市民活動を進めるときに、どういう言葉を使っていけばいいか、示していただければと思います。

○事務局

ゼロカーボンアクションをさらに馴染みやすくしようとして作り出したのがデコ活という言葉で、国が推進しようとしているのでそこに乗っていく方向

かなと考えてはいたんですが。来年度、国の補助金を活用して家電の買い替えキャンペーンなどを検討しておりますので、そのタイミングで1つのキーワードとしてデコ活宣言ができればと思っておりました。ゼロカーボンアクションプロジェクトとしてもいいんですけど、色々な言葉が飛び交うので分かりにくいかもしれませんね。それについてはまた検討させてください。

○委員

デコ活についてなんですが、資料にデコ活アクションとして色々書かれてはいますが、実際これから啓発をしていくとして、市民の方がこれを読んで実行に移すかどうか。チラシをもらって終わりになってしまう人が多いと思いますが、この資料にあるQRコードの先には、デコ活をするとポイントが貯まるとか、何かお得なことはあるのでしょうか。

○事務局

この資料は環境省がデコ活の推進のためにつくったものなんですが、このQRコードはデコ活宣言のページに繋がるもので、国自体はデコ活宣言でなにかお得になるようなキャンペーンはやっていないです。なので、資料でもお話ししたように、県のほうで脱炭素エキデン愛知という形でポイントを貯めて協賛企業の景品がもらえるようなイベントを予定していたり、県や市が個別にやっていているんだと思います。

○委員

より多くの普通の一般市民の方に取り組んでもらいたいと思います。イベント等で啓発を続けていくしかないのかなという気持ちはありますが、そもそもそういうイベントに来ない人もたくさんいるし、そういった層もみんなで行き組んでいかないといけないと思います。

○事務局

取り組むきっかけをいかにつくるか、広げていくかだと思うんですが、1つ事例を紹介させていただきますと、市内の不動産業の方から、賃貸のマンションやアパートにEV充電器を設置したら、意外と使用されるケースが増えてきていると聞きました。そういうところと連携すると、取り組むきっかけが広がりますし、そういった取り組みを地道に色々な方面で広げていくっていうのもありなのかなと。市が直接市民に働きかけるだけではなくて、それがこのSDGsパートナー制度の1つの取り組みの事例も繋がっていくのかなと考えております。

○会 長

ありがとうございました。他にありますか。

それではないようですので、次に「その他」として、環境審議会の委員の任命ですけれども、今日が今回の任期としては最後の会議になりますので、事務局の方からお話があるそうですので、お願いします。

○事務局

その他といたしまして、皆様に令和5年4月からお願いしております環境審議委員の任期が令和7年3月31日で、2年間の任期を終えて満了いたします。現在の環境審議委員会は15名で構成されておりました、構成区分といたしまして、学識経験枠の方が4名、団体枠の方が6名、それから一般の公募枠の方が4名、行政機関枠1名という形の内訳となっております。事務局といたしましては、来年度以降の環境審議委員の人数と構成区分は先ほど申し上げた区分で行いたいというふうに考えております。

学識経験枠の方、団体枠の皆様におかれましては、それぞれご事情がおありかと思っておりますけれども、継続の手続き等につきましては個別にご相談をさせていただきながら進めていきたいと考えております。

なお、一般公募委員の方につきましては、広報2月号とホームページで募集要項を掲載しておりますので、大変お忙しい中誠に恐縮でありますけれども、ご確認の上、ご応募をいただけますと助かります。なお、提出期限は2月21日の金曜日でございますので、それまでに必要書類等を添えて環境課までご提出いただけますよう、よろしく願いいたします。私からの説明は以上となります。

○会 長

ありがとうございました。他に事務局から補足することはありますか。

○事務局

冒頭でSDGs 未来都市のお話をさせていただきましたけれども、3月8日にSDGsの普及啓発イベントがHome&nicoホールで開催されます。その際に食品ロス削減に関するアンケートをとりまして、環境フェスタで実施した時との差を分析して、その結果を愛知県に報告することになっておりますので、その旨報告をさせていただきます。

○会 長

ありがとうございました。

○委員

市にこうなんエコチャレンジ推進協議会というのがありまして、審議会委員のメンバーも大勢いらっしゃるんですが、3月16日にアピタ江南西店さんのほうで地球まるごとエコチャレンジというイベントをさせていただきますので、ぜひお越しくださいますようお願いいたします。

○委員

最後にその他ということで、今日のお昼にテレビでやっていたんですが、ストローが以前プラスチックゴミとして問題になって、紙のストローに変わったことは皆さんご存じだと思います。ただ、紙のストローは長時間使用しているとふやけてしまうということで、それに替わるバイオポリマ製のストローが企業から発売されています。バイオポリマはこれまでのプラスチックとは違い、土の中で分解されるもののようにして、一部の飲食店では1月から提供されているようですので、皆さんにお伝えしておきます。

○会長

ありがとうございました。他はありませんか。

では、本日も熱心にご審議いただきましてありがとうございます。また次回もこのメンバーで顔をそろえてやれたらなと思っておりますので、ぜひまた応募していただけるとありがたいと思います。

これで第3回の環境審議会を終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。